原子力規制委員会記者会見録

- 日時：平成30年9月19日（水）14：30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎　記者会見室
- 対応：田中委員長代理

＜質疑応答＞

○司会　それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制委員会の定例会見を始めます。

本日は､委員長の更田が出張中のため､委員長代理の田中が対応させていただきます。

それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問の方をお願いいたします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。オオサキさん。

○記者　NHKのオオサキです。お願いします。

今日、委員会の中でもいくつか発言がありましたけれども、東京電力の福島第一原発の3号機の燃料取り出しがやや遅れる見通しになっているということで、先週の検討会でもマネジメントの部分を含めていろいろな御指摘があったかと思います。現状の課題をどう見ておられるかということと、それから、今後の進め方ですね、規制委員会としての御見解があれば、お願いできますか。

○田中委員長代理　先週の1Fの委員会でもいろいろと議論し、我々からも、また、事務局からも発言があったところでございますが、今回の3号機の燃料取り出しのケーブルのところについては、これはやはり品証の問題かなと私たちは理解していまして、トップマネジメントとしてしっかりと品証管理をしてほしいというのが我々の願いでございます。

これも3号機の燃料取り出しでいうと、クレーンにおいても、ちょっと問題は違うのですけれども、電圧が違うという問題もありましたし等々、こういうところにもしっかりと品証管理をし、今日の委員会でも委員の方から発言がありましたけれども、メーカー任せにするのではなくて、東電が自主的にしっかりと対応することが重要かと思っています。

○記者　具体的にはどういうところ、組織のどういうところに課題があって、それを解決していくために何が求められているのかというところについては、何かお考えはありますでしょうか。

○田中委員長代理　個別の問題に対して何か詳細に言うのは難しいところがあるのですが、どこで作ってもらうか、どのようにして、発注するときに何を見るか、それをどこで検査してどうするかとか、やはりそのようなこと一個一個についてしっかりと見ないといけないと。それが全体としてのトップマネジメントとしての品証管理かなと思っていま

す。

○司会　御質問のある方はいらっしゃいますか。ユイさんでよろしかったですか。

○記者　新潟日報のユイと申します。よろしくお願いします。

今日、委員会でも議論がありました柏崎刈羽の非常用ディーゼル発電機の異常についてなのですけれども、改めてなのですけれども、安全上重要な機器でこうした問題が起きたことについて、まず受けとめを伺えますでしょうか。

○田中委員長代理　本日も何人かの委員の方から発言もございましたし、私も発言したかと思いますけれども、やはりああいうようなターボチャージャーというのかな、ところが固着というのは、余り起こらないものではないかと思うのですけれども、そのようなものに対してどのように品質管理をしているか等々というところは大きな問題かと思っています。

全体としてのマネジメントをしっかりやるという中で、いろいろなことに対してもしっかりと対応するというのが、やはり事業者として大変重要なところだと理解しています。

○記者　先ほどのお話とちょっと重複するかと思うのですが、またメーカー任せという発言があったことについてなのですけれども、東電、先日の配管の耐震性の計算ミスについて、柏崎刈羽の所長が会見で、なかなか、メーカーのミスについて、自社で確認し切るのは無理があるというような発言を所長がしていらっしゃったのですけれども、今後の原因究明や再発防止に向けて、改めて規制委員会としては、東電にどのような姿勢を求めていかれますか。

○田中委員長代理　配管の問題については、私は詳細を理解していませんので、特にコメントを言うことはできませんけれども、先ほどから申し上げていますが、やはり全体としてのトップマネジメントとしての品証管理、その中でいろいろなレベル、レベルの責任ある方々がしっかり対応することが重要かと思っています。

○記者　確認なのですが、今後の調査についてなのですけれども、現時点では、委員会として直接東電からヒアリングをされるですとか、そういった予定はないということでよろしいでしょうか。

○田中委員長代理　ターボチャージャーの問題につきましては、今日も報告がございましたけれども、まず東電がしっかりと原因を調査し、それを規制庁の方でしっかりと見ていく、評価していくというところが第一歩かと思っています。

○司会　御質問のある方はいらっしゃいますか。ミヤジマさん。

○記者　FACTAのミヤジマです。

3号機の取り扱い機については、たしか13年当時に米国のメーカーに発注をして、そのときに3号機のオペフロがどういう状況だったかもつかんでいない。私に言わせると、

これが果たして現場、現実に即した、操作性を含めて、耐久性を含めて、いい機械なのかどうか、分解したってわからないのだと思うのですよね。

ただ、それはそれで置いて、要は東電というのは、炉内のものについては、いろいろな形で最新鋭の無人の機械を作っているけれども、取り扱い機なんか、本来、そんなに難しい機械だとは思いません。それについて完璧なものを作れないというのは、やはり基本的に何か最優先なことを後回しにしているから、こういうずさんなことになっていると。

やはり東京電力のウエートのかけ方が、まず使用済燃料というところがわかっていないから、あんな尺取り虫みたいなものをいくら作ったって、本当に持ってくるかどうかわからないものばかりやっているのですよね。その辺をどのようにお考えになっているのか。やはり3号機を含めて、使用済燃料をさっさとやることが第一だということが東京電力の経営者はまだわかっていないと思うのですけれども、その認識はどうなのでしょうか。どちらに優先順位があるのか。

○田中委員長代理　我々も、あるいは国としても3号機からの燃料取り出しが大変重要だと理解してございます。今回の問題も、言われるとおり、ケーブル等々を作ったのはかなり前なのですね。そのときも、作った後、そのときにどのようにして品証管理をしたかわかりませんけれども、作った後もどのようにして保管していたのかとか、その辺は大変重要なところだと思うのですね。やはりいろいろな細かいところにも目が行って、しっかり対応するということが、まず基本の基本かなと思っていますけれども。

○記者　要するに、やはり使用済燃料についてのことを1丁目1番地にやっていなくて、持ってこられるかどうかわからない使用済燃料ではなくて、デブリを取り出そうとしている東京電力の人的なウエートのかけ方とか、それが間違っているからこういうことが起こっていると私は思うのですが、その点はどう御覧になりますか。

○田中委員長代理　先週の監視・評価検討会においても、その辺のところはマネジメントとしてよくないのではないかということを私も指摘し、事務局の方も指摘したところでございます。

もう少し言うと、大事なところに人とお金をどう注ぎ込んでいくのか。同時に、人とお金だけではなくて、本当に細かいところの問題とすれば、電気的なところ、あるいは機械的なところにもしっかり目が行き渡るということも大事かなと思っています。

○司会　よろしいですか。

○記者　私は正直言って、あの取り扱い機は国産で作り直した方がいいのではないかと。本当に操作性とか耐久性が検証できないのだったら、それは東京電力任せにすること自体も、結局、途中であれがとまってしまったりすると、1号機、2号機もおかしいことになるわけですから、本当にあんな工学的な機械だったら、もっといいのがちゃんと作れると実は思っているのですけれども、やはり東京電力は何か新しいことをやりたくて、本当にそういうことを真面目にやっていないように思っているのですけれども、それは

どうでしょうか。

○田中委員長代理　その辺のところはよく分かりませんが、我々とすれば、しっかりとした装置を作っていただいて、安全に着実に燃料取り出しができるかどうか、そういうことを見ていきたいと思っています。

○司会　よろしいですか。それでは、御質問のある方。ドイさん。

○記者　電気新聞のドイと申します。よろしくお願いします。

日本原燃の再処理工場等の審査で、14日の地震・津波側審査で一通り論点の確認が済んだということで、施設側の審査も7月の会合で特に異論も出なかったということで、当面は日本原燃からの補正申請の提出を待つという現状ということでよろしいのでしょうか。

○田中委員長代理　補正申請ができた段階で、その中をしっかりとして我々も見て対応していきたいと思います。また、補正申請書の中でいろいろと問題あるか分かりませんし、それも踏まえて、これからもしっかりとした審査を行っていく考えでございます。

○記者　これまでも補正で落丁とか、そういう問題もあったかと思うのですけれども、日本原燃に対して補正を出すに当たって求める部分とか、そういったところがありましたら、お話しいただければと思います。

○田中委員長代理　落丁とかどうのというのは、これは当たり前の問題ですから、これまで議論してきたこと、説明したことが本当に十分に申請書の中に書いているかどうかがこれからのチェックしていくポイントになってくるかと思います。

○記者　もう一点、確認なのですけれども、補正の内容によっては、追加の審査会合が開催される可能性はあり得るのでしょうか。

○田中委員長代理　可能性はあり得ます。

○記者　ありがとうございます。

○司会　IWJさん。

○記者　IWJのワタライと申します。よろしくお願いします。

先ほどの質問の関連なのですけれども、東京電力、ここのところ、使っている機器の故障であるとか、トラブルとか、ありますけれども、海外のメーカーであるとか、国内のメーカーであるとか、明らかに機械に瑕疵がある場合、やはりメーカーの瑕疵をきちっと責任を問うことを東電がマネジメントという意味でもやるべきではないかと思うのですけれども、その辺についてはいかがでしょうか。

○田中委員長代理　メーカーに責任を問うことはもちろんでございますが、さらにどういうふうにして東電がメーカーに物を作らせたのか、調達していく中で何を見たのかというところも重要かと思います。

○記者　分かりました。ありがとうございました。

○司会　ほかはございますでしょうか。コシカワさん。

○記者　日本経済新聞のコシカワと申します。

昨日の東海再処理施設の監視チームの会合でも話題になりましたけれども、原子力機構のバックエンドロードマップ案がまとまって、80近い施設を70年ぐらいかけて段階的に廃止していくということで、いろいろな課題があると思いますけれども、委員長代理としては、どんな課題があるとお考えか、規制委として今後どう臨んでいく必要があると思われていますか。

○田中委員長代理　8月の末に出ましたバックエンドというか､全体ロードマップが出てきたところでございますけれども、ああいうことがやっと出てきたなと思いながらも、これを本当に実行していく中には様々な課題があるかと思います。これは時間がかかることでもあり、同時に、昨日も発言しましたけれども、全体を見て、計画的にどう考えていくのかということがないと、一個一個やっていってもだめですから、それが大事かなと思います。同時に、様々な施設というか、拠点、拠点がありますから、それをどう考えていくのか、また集約化という話もありまして、どうするかとか、廃棄物の問題に対しても、どういう廃棄体を作ればいいのか、それをどこにどう集約するかとか、様々な問題があろうかと思います。JAEAは日本で唯一の研究開発機関でもありますけれども、バックエンドのところもしっかりやっていただくことが大事であり、同時に、その重要性を文科省にも説明し、予算的なところも十分に対応させながらやっていくことも大事かなと思っています。

○記者　ありがとうございます。全体の話と、あとは個別の施設の話もしていかなければいけないということでしたけれども、特に注目されている施設というか、注意が必要だなと思われているのは、既に東海再処理とか、もんじゅとか、始まっているものもあれば、今後控えているものもあると思いますけれども、特に注目というか、注意した方がいいものはありますか。

○田中委員長代理　全てのサイトについて注目してございます。そこのサイトでの特徴がありますし、そこで保管しているもの、あるいは核燃料も含めて、いろいろと違いますから、全ての特徴を見ながら、全部注目していくことが必要かと思っています。

○記者　分かりました。ありがとうございます。

○司会　ほかはございますでしょうか。ヤマグチさん。

○記者　プラッツのヤマグチと申します。お願いします。

先ほども出ました再処理工場、六ヶ所なのですが、原燃の審査では、田中さんの御認識の中では、問題なく進捗していき、当初、原燃が目標と考えていた2021年上半期に向かっては、審査自体もかなり進捗、終盤にあり、その路線に余り不安はないというお考えなのか、と言いながらも何か超えなければいけない大きな課題は御覧になられるのか、

雑感で結構なのですが。

○田中委員長代理　まず、一般論といたしましては、審査は最後の最後でしっかり見ることが大事でございます。大きな論点はないと言いながらも、申請書を見ていく中でまた出てくるか分かりませんから、予断はなしにしっかり見ていくことがまず大事かなと思っています。

○記者　おっしゃったような大きな論点、大きな課題は今のところ特に見当たらず、進捗はしているだろうと。

○田中委員長代理　補正書を見ていく中で、またあり得るか分かりませんので、それは何とも言えません。

○記者　ありがとうございます。

○司会　そのまま、カワダさん。

○記者　朝日新聞のカワダと申します。

再処理工場の審査を御覧になってきた中で、一番のポイントというか、注目されてきた点とか、そういったところがあれば教えてください。

○田中委員長代理　御質問は、再処理の審査をしてきた中で注目した点と。

○記者　注目した点とか、特にここをよく見たというか、注意して見てきた点。

○田中委員長代理　1つは、重大事故に対してどう対処しようとしているのか、あるいは放出量を下げるためにどんな対策を考えているか、これは新規制基準のところで追加されたところでございますから、そこをよく見ていたところでございます。

○記者　重大事故というのは、やはり蒸発乾固とか、そのあたりのお話。

○田中委員長代理　はい。

○記者　分かりました。ありがとうございます。

○司会　ほかはございますか。最後、ミヤジマさん。

○記者　『FACTA』のミヤジマです。

田中先生は9.11前は推進派の学者のまさに権威であられたわけですけれども、委員から委員長代理になられて1年になりますけれども、休日の過ごし方を含めまして、委員長代理というのはどれぐらい大変なものか、どんな御感想を持っているのか、伺ってみたいと思います。

○田中委員長代理　ちょっと異なった質問ではあるのですけれども、委員になるときにも質問等出ました。私が委員としてやっていくことについて、どんな気概を持ってやっていくか、質問したところでございますが、申し上げたとおりでございまして、規制委員会を作ったときのモットーでございますけれども、しっかりとした規制によって人と環境を守るのだというところが大事でありまして、そのバックにあるのは科学的、技術的な知見だと思うのですね。それをしっかりやっていくということで、私も委員になって

から丸4年たちますけれども、いつもその辺の思いを新たにしながらやっていくというところで、これからもそうやっていきたいと思います。

○司会　それでは、本日の会見は以上としたいと思います。お疲れさまでした。

－了－